

企業と育成する水稻品種

“弘大ライケット1号”

研究者名 石川 隆二, 協力企業 (株) ライケット



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

研究概要

地域における米販売は、消費者の米離れと離農問題を抱え今後のコメ流通分野該当企業の経営が懸念されます。その中で特徴ある品種を自社で持ち、生産から販売まで手がけることで安定した栽培、安定した売り先に届けることが独自の成長戦略を作ることにつながると期待されます。

大学では2016年からの第3期中期計画戦略的プロジェクトの1つとして、「アグリ・ライフ・グリーン分野における地域の特性・資源を活かしたイノベーション創出・人材育成事業」を行いました。

その1つのプロジェクトとして地域に提供できる温暖化耐性イネ品種育成がありました。6年間で品種申請を行うことを目標として(株)ライケットとの共同事業がすすめられ、2021年度に同プロジェクトの成果として農水省に弘大発の品種申請が受理されました。

民間育種: 農林総研における栽培全景 通常区(左)と多肥区(右)
撮影日: 7月29日 左から 供試系統, 比較対象のまっしぐら、つがるロマン



通常区(左)と多肥区(右)
撮影日: 8月18日
左から 供試系統, 比較対象のまっしぐら、つがるロマン



▶国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地方創生サイクル”の確立



研究成果



弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

温暖化により、東北地域では冷害とともに温暖化にも耐性を持つ品種が必要になっています。特に青森県では開花後、平均25度以上の気温により胴割れが生じ、良食味米の品質劣化が危惧されています。青森県は立地条件からやや長日条件であり、西日本などの品種は栽培できません。また、冷害は今後もおこりうることから、冷害・温暖化耐性のマルチな耐性が求められます。そのため県内の育種素材を利用した研究にゲノム解析結果を加え、品種育成を行いました。耐性遺伝子群の特性を評価しており、今後の育種を加速することが期待されています。

水稻「弘大ライケット1号」

撮影年月日：令和3年度9月19日
撮影場所：弘前大学農学生命科学部

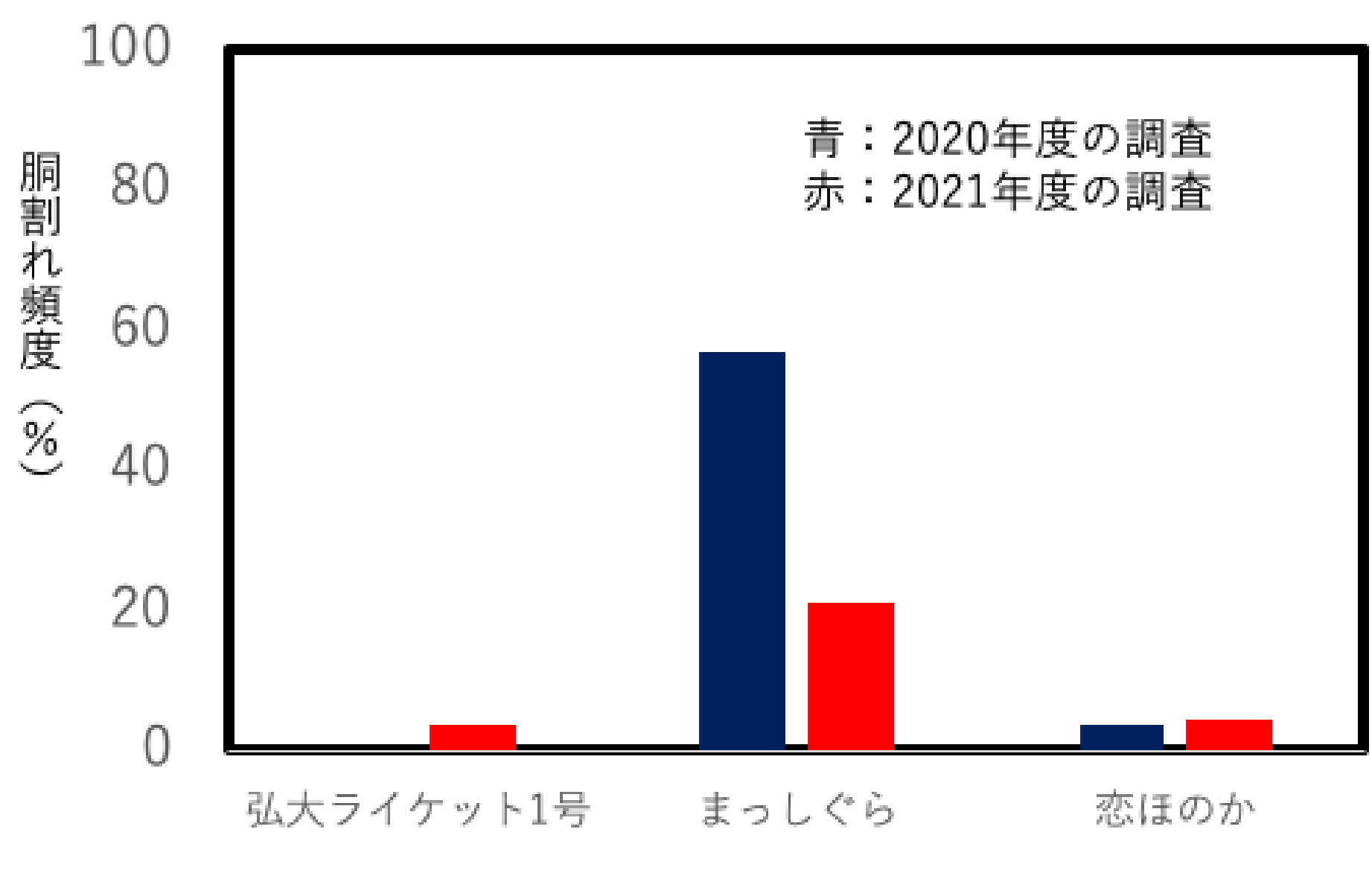
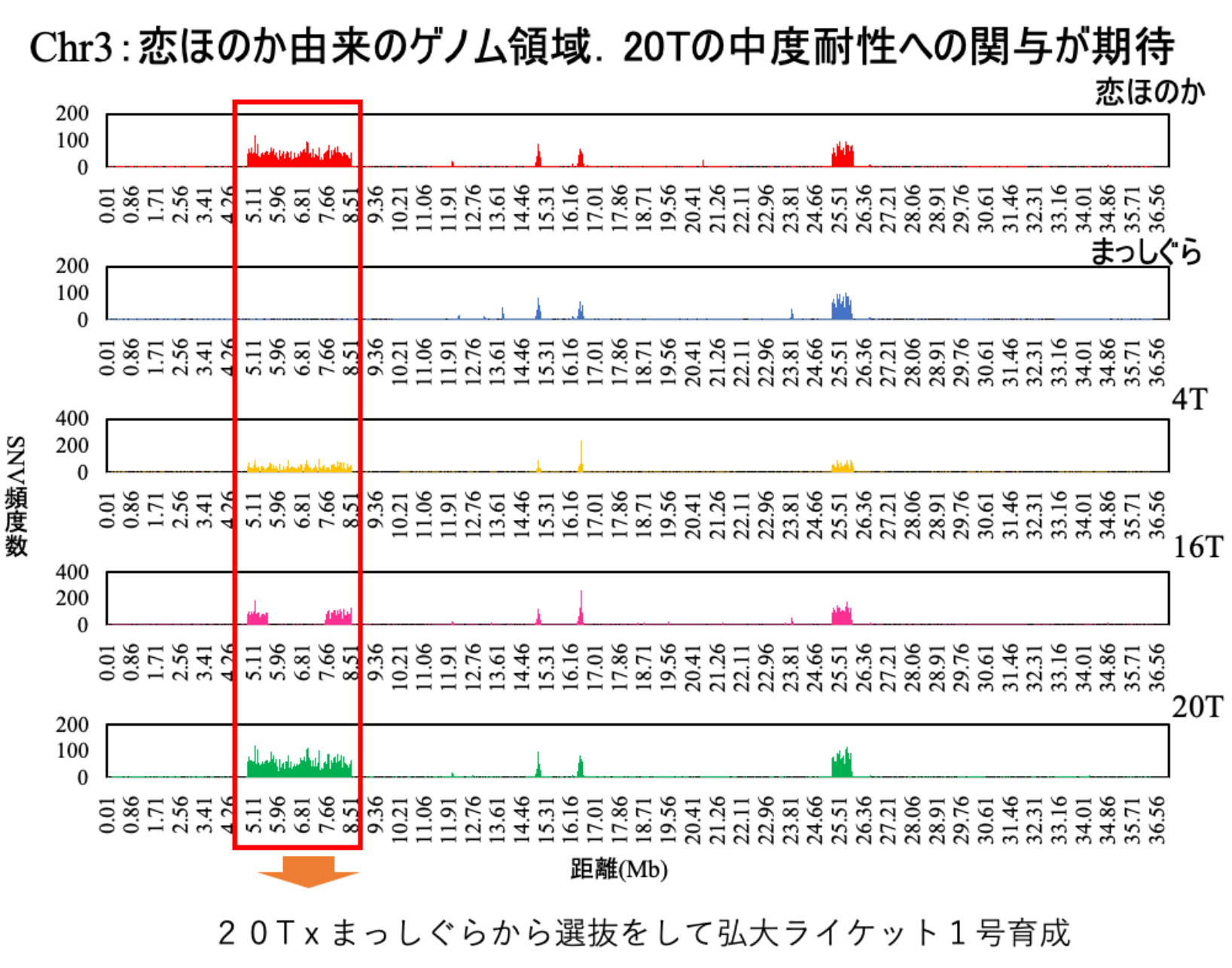
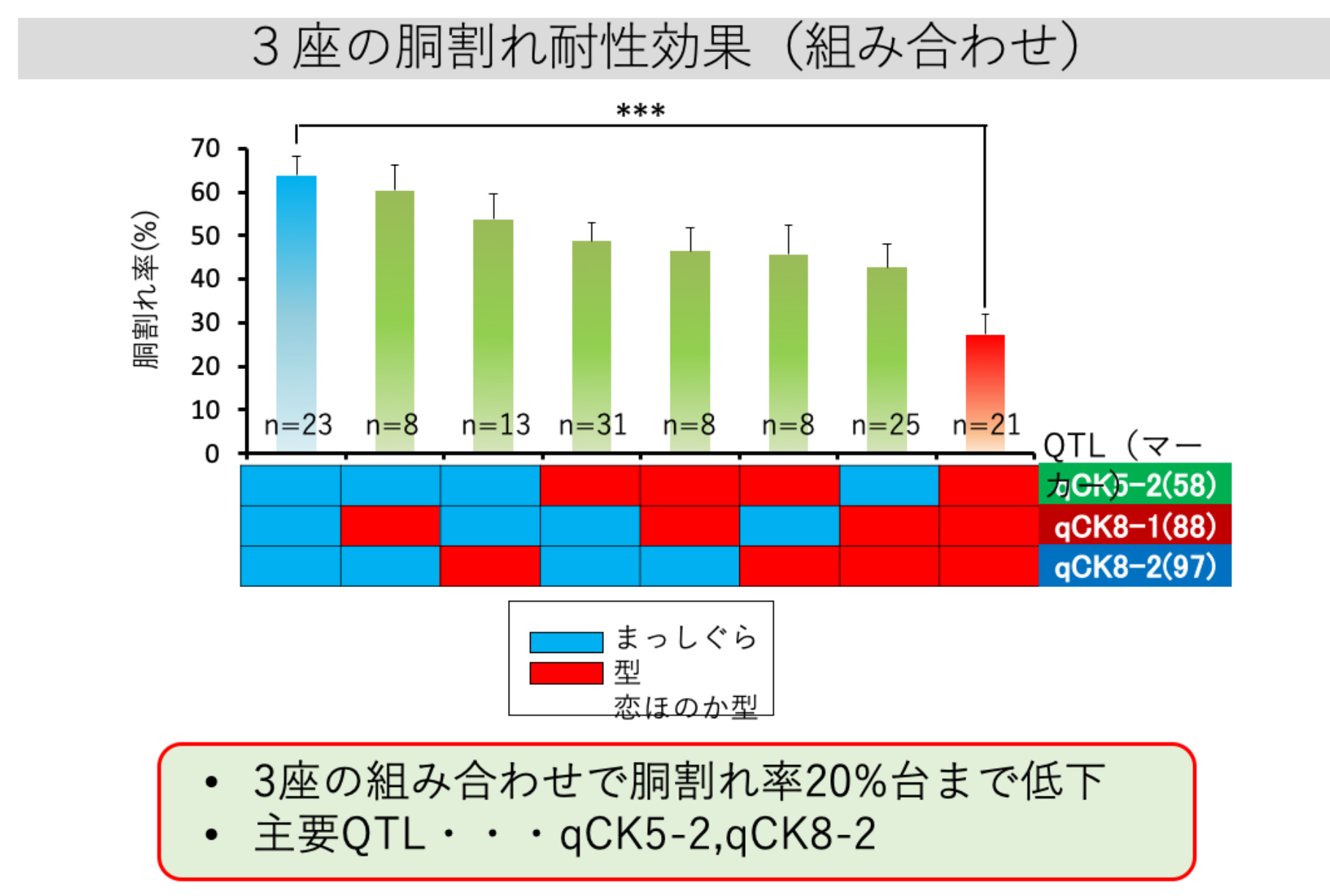
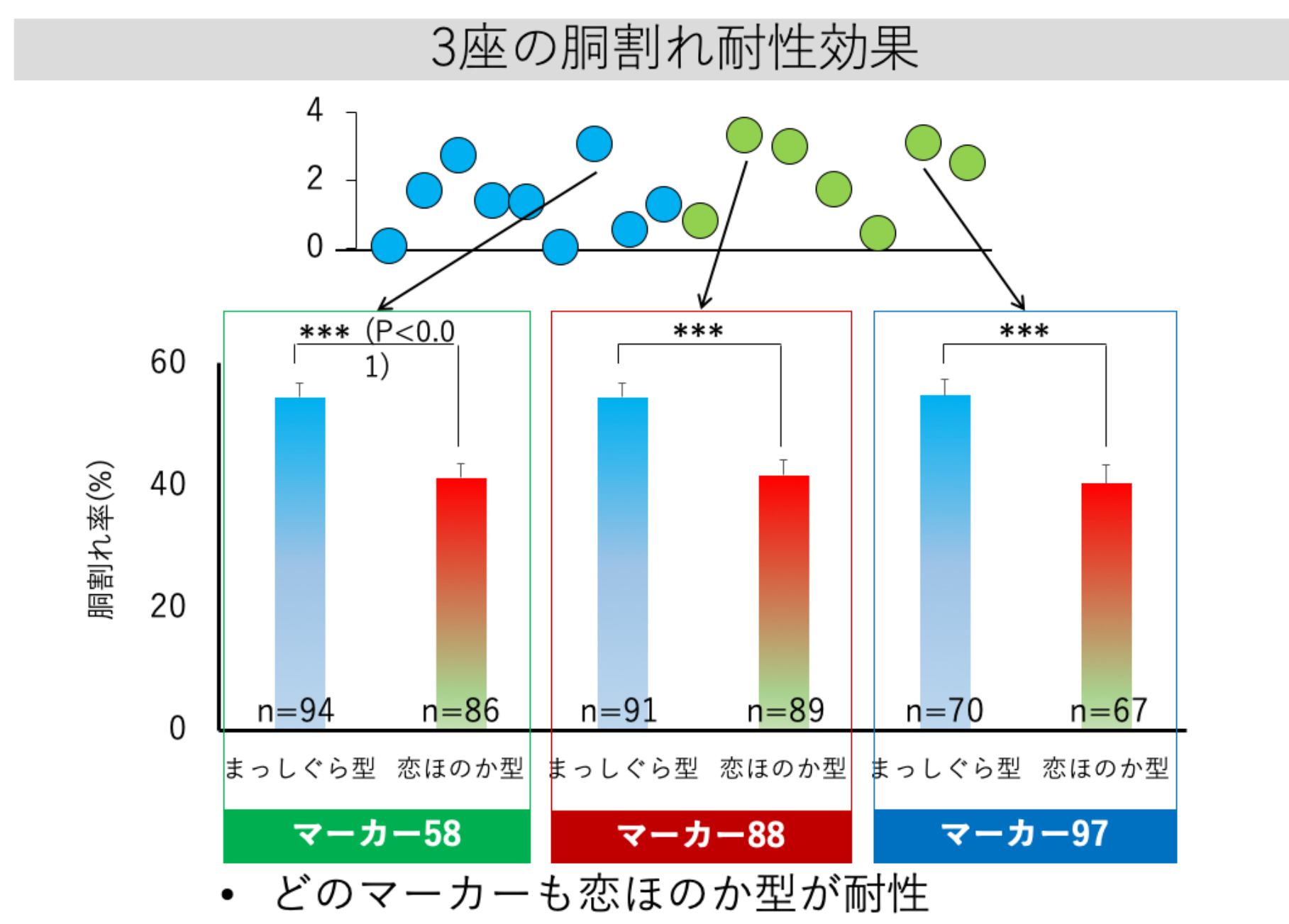


水稻「弘大ライケット1号」

撮影年月日：令和4年度2月24日
撮影場所：弘前大学農学生命科学部

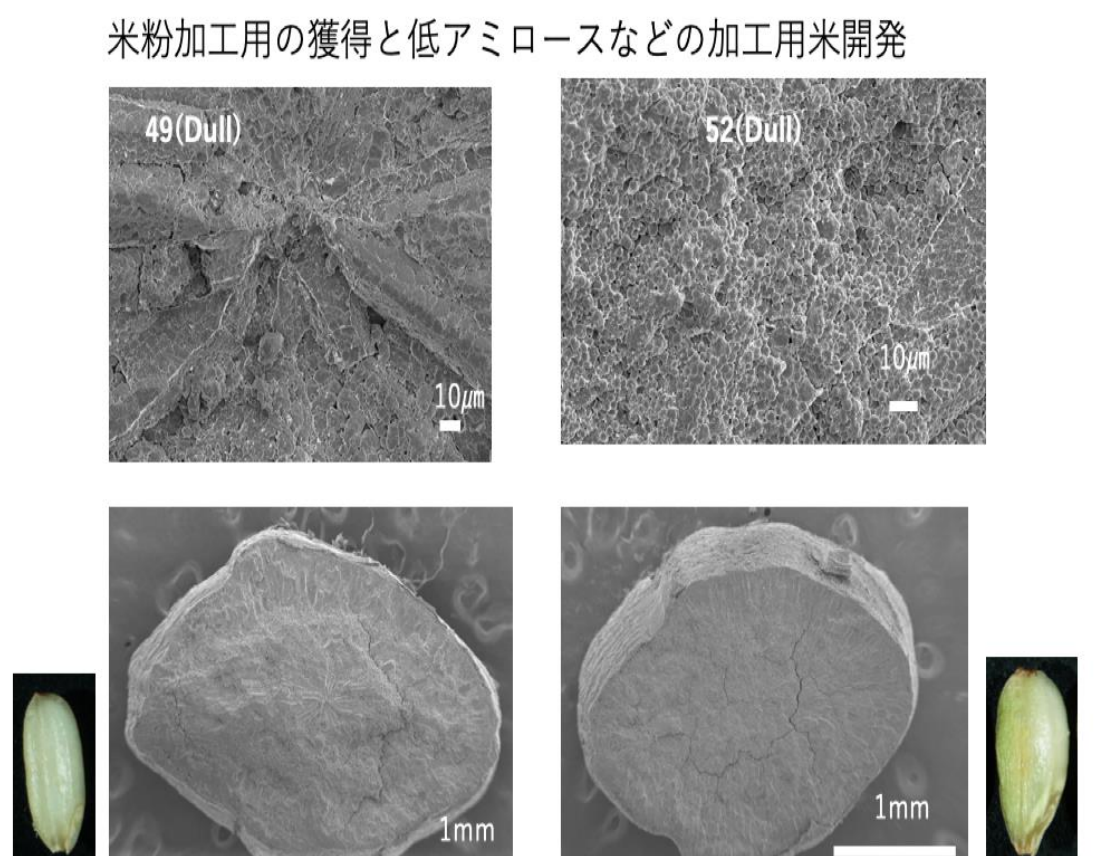


左「弘大ライケット1号」 中央「まっしぐら」 右「恋ほのか」 (それぞれ、上：粳，下：玄米)



今後の展開

より強い耐性ととともに収量を向上させた品種を育成しつつあります。さらに、モチ品種や低アミロースなど付加価値を向上させる変異創出も行っています。



付加価値を創出した品種育成へ活用!!

【問い合わせ先】
弘前大学
研究・イノベーション推進機構
産学官連携相談窓口
E-mail: ura@hirosaki-u.ac.jp
TEL: 0172-39-3176